

泌尿器科紀要

第 2 卷 第 6 号

昭和 31 年 11 月

綜説 尿石症治療後の再発に就て	楠 隆 光	315
排尿時斜傾位連続レ線間接撮影法による排尿開始時の膀胱運動の研究		
第 1 報 排尿障碍のない場合	岡 直 友	317
尿路結核に関する研究		
第 1 篇 尿路結核の化学療法	多 田 茂	329
尿路通過障碍の X 線的研究		
膀胱チスチン結石の 1 例	稲田務・後藤薫・仁平寛巳・酒徳治三郎・日野豪・片村永樹	348
海綿腎(腎錐体部囊腫症)の 1 例	前田行造・瀬川陽一	353
新呼吸循環刺戟剤アトムリンの泌尿器科手術に対する応用	酒徳治三郎・三浦武芳	359
	稲田務・後藤薫・山崎巖・卜部敏人・玉置明	363
第 6 回中部地方会抄録		370
英文抄録(1 卷 3 号—1 卷 4 号)		380
第 2 卷総目次・索引		392
編集後記, 購読要項, 投稿内規		398

Fluorographic Study on Bladder Movement in Micturition.

Report I: In the Normal Persons.	N. Oka	317
Studies on Urinary Tuberculosis.		
Report II.: Chemotherapy for Urinary Tuberculosis.	S. Tada	329
Study of Urinary Tract Obstruction by X-ray Photography.		
.....T. Inada, K. Goto, H. Nihira, J. Sakatoku, T. Hino and E. Katamura		348
A Case of Cystine Stone of the Bladder.	K. Maeda and Y. Segawa	353
A Case of Sponge Kidney or Cystic Disease of Renal Pyramids.		
.....J. Sakatoku and T. Miura		359
Application of ATMURIN on Urological Operations.		
.....T. Inada, K. Goto, I. Yamazaki, T. Urabe and A. Tamaki		363
Society Transaction.		370
Abstracts (Vol. 1, No. 3 - No. 4).		380
Index.		392

京都大学医学部泌尿器科教室

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Japan.泌尿紀要
Acta Urol.

編 集 後 記

結核化学療法が行われる様になつてから尿路結核の病像に大きな変貌を来たした。化学療法を受けた患者を初診すると診断が容易ではない。うつかりすると腎結核の存在を見逃がす惧れもあり、精密検査によつて初めて腎結核を診断し得る場合が少くない。この様な化学療法は一般医師によつてその患者の呼吸器結核に対して行われ、共存する腎結核は医師の念頭に全くない場合もあるし、又尿路結核の疑のためにとりあえず化学療法が行われる場合もある。いずれにしても精密な検査によつて診断せず簡単に化学療法が行われ、その故に尿路結核の病像が変り、診断も困難になる事が多い。よく調べてみると之らの大多数は化学療法のみによつては全治させる見込みのないものである。然らば尿路結核が念頭にない場合は別として、その疑ある者に対して専門的検査を行わずに慢然と化学療法を加える事は無意義と云うよりもむしろ有害である。社会保険に結核医療の基準と云うものがある。それによると化学療法を行うに当つては対象となる病巣が化学療法のみで目的を達し得るか、その他の点を慎重に考慮し、慢然と化学療法を続けたい様にとの治療方針が唱えられており、之はもつともな事である。そうなると専門的検査を行わずに、単なる尿路結核の疑や或は尿路結核は確かであつても、その病変程度の判然としない場合には化学療法を行うことは健康保険に於ても認められていない。それも当然の事である。



過日の某新聞の寄稿欄に於て癌研の田崎博士が日航機の出発遅延に関連してそのサービス精神の欠如を痛烈に非難してられるのを讀んだが、何でも事なかれ主義の多い学者の中にあつて、やや云にくい事を勇敢に、卒直に発言せられた博士に対して敬意を表したい。それと同じ様な事であるが、モダン・テラビーに大矢全節博士が小説「太陽の季節」と「鍵」を攻撃してられるのを讀み、博士がその見識をはつきりと述べてられる事に感銘した。知識階級者は思う事がたくさんあつてもついそれを発表せず終り易い。成程沈黙を守る事によつて波は立たず、敵も作らずにすむであろうが、やはり正しいと思ふ事は勇敢に堂々と発言すべきであろう。

購 読 要 項

1. 発行は隔月（年6回）とする。
2. 会員は年間料金600円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都4772番泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、寄稿者は本会々員に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. - J. Urol., 45：527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院京都大学病院泌尿器科紀要編集部